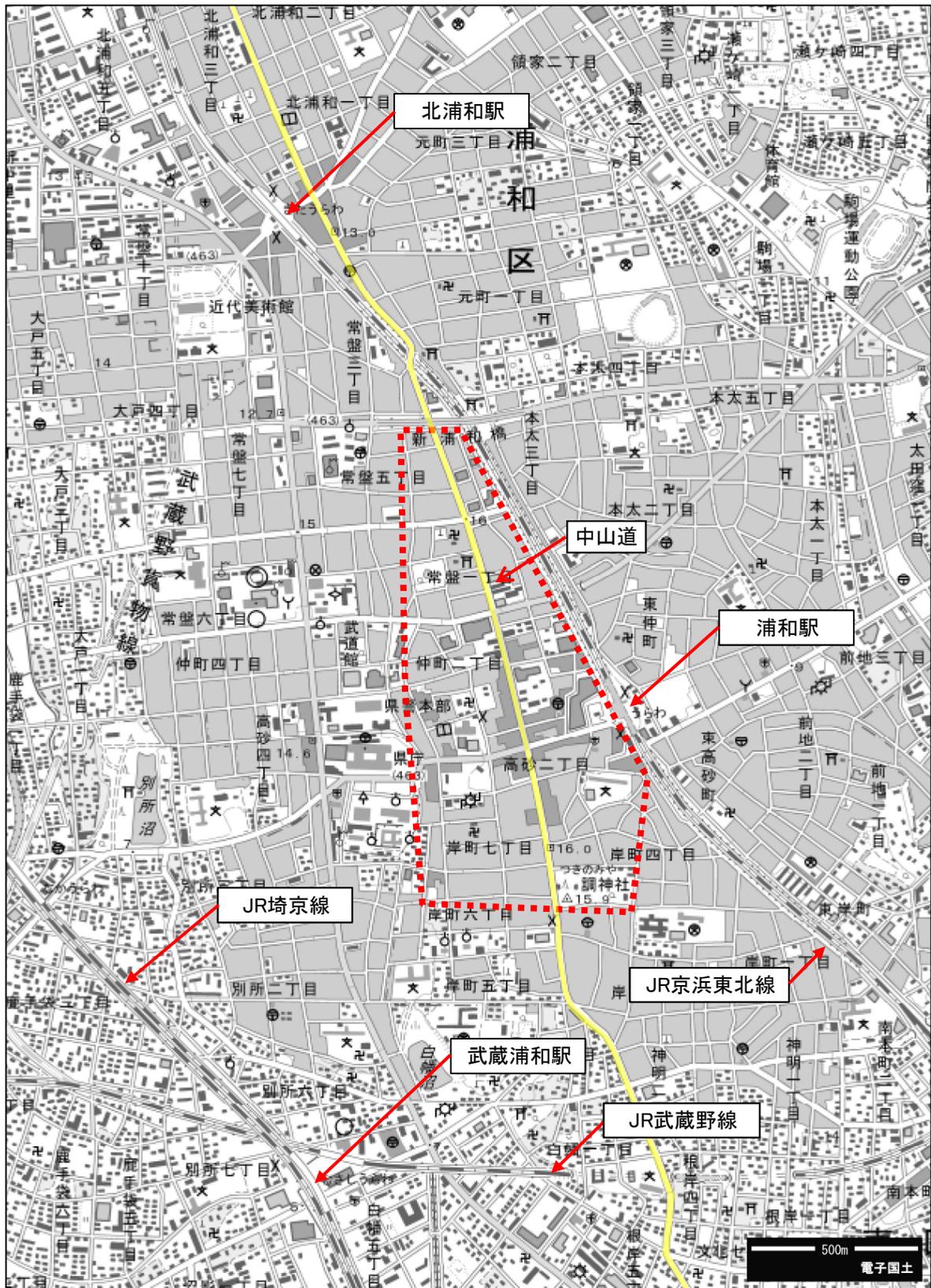


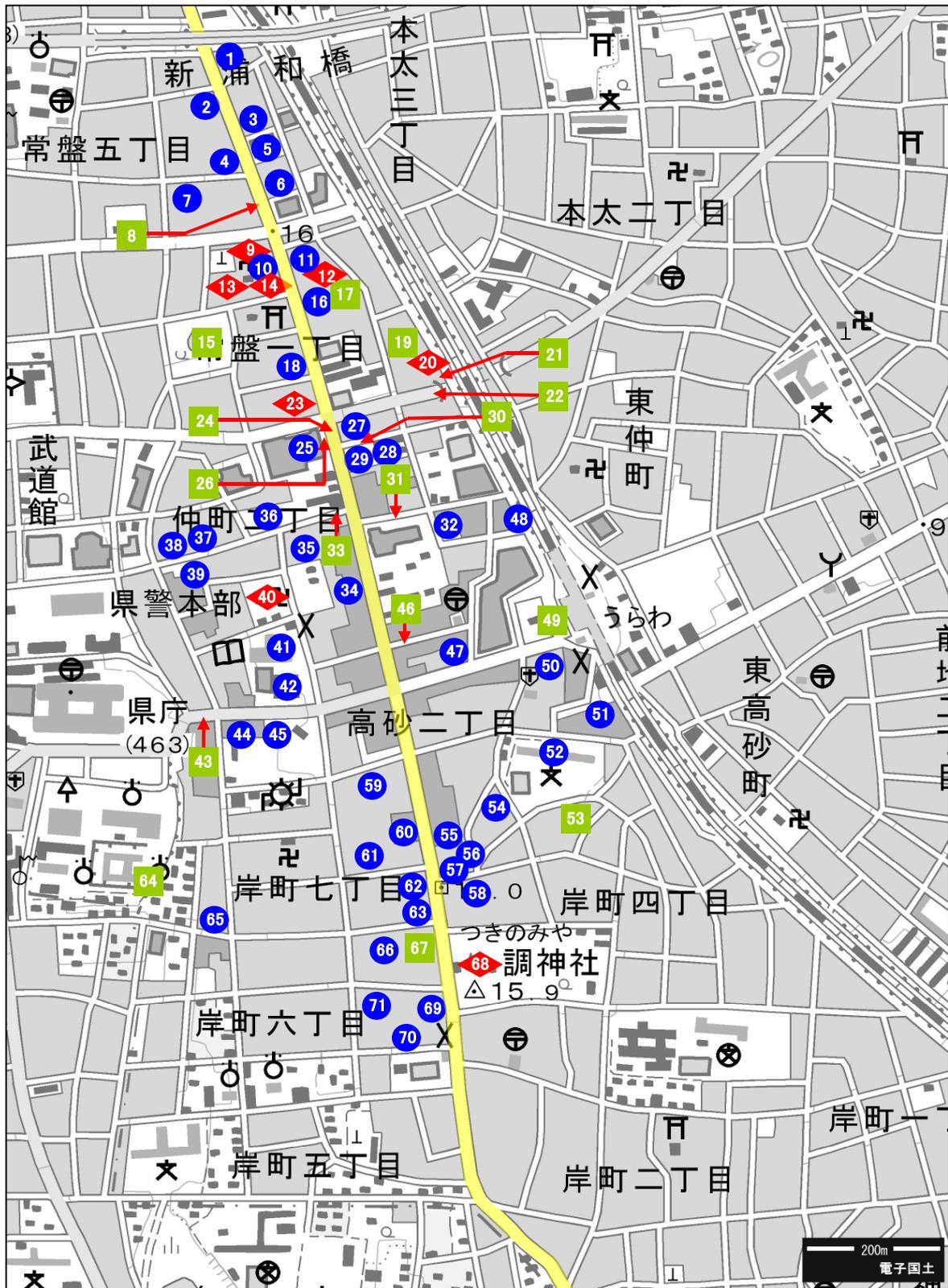
浦和



案内図

調査範囲

浦和



配置図

凡例

- 
史跡・寺社等
- 
その他の建造物
- 
通り・広場・樹木他

浦和



浦和宿は、日本橋を出て3番目の宿場町で、江戸時代には本陣1軒、脇本陣3軒、旅籠15軒があった。現在は本陣表門(けやき通り薬医門)のみ大間木に移築されている。現在の中山道は幹線道路機能を担い、沿道には浦和名物のうなぎの老舗やホテル、美術館、商店等が立地する。(写真は浦和区仲町の浦和センチュリーシティ付近)

1

民家



せがい造り(木造2階建て、庇付き)の重厚な建物である。

2

民家



街道に面する木製建具のガラス戸、瓦屋根そして黒壁に打たれた白い碇が目を引く。

3

民家



街道から奥まった敷地にあるが、黒板壁と薄い朱色の壁が目を引く民家。

5

商店



瓦屋根と白漆喰が目を引く古い造りの店舗で、昭和風ファサードも印象的である。

6

蔵



敷地の奥に中・小2棟の石壁の蔵が見える立派な民家である。



<p>7 事務所ビル</p>	<p>8 中山道</p>	<p>9 成就院</p>
		
<p>白い外壁のビルで上部がオーバーハングしており最上部が三角形になっており、周囲から目立つ独特のデザインのビルである。</p>	<p>街を南北に走る大通り、両側に並ぶ商店街は昭和を感じ、少し懐かしい雰囲気がある。</p>	<p>通りから導かれた石畳の参道の奥には木立に囲まれた本堂がある。通りの奥の静かな空間を形成している。</p>
<p>10 -1 建具店</p>		<p>11 酒店</p>
		
<p>街道に面した店舗側は、改装されているため古い商家の面影は屋根と店舗の裏側に伺える。</p>		<p>周囲をビルに囲まれている酒店。軒先には昭和を感じさせる看板が吊るされている。</p>
<p>12 三峰神社</p>	<p>13 慈恵稻荷神社</p>	<p>14 二・七市場跡の祠</p>
		
<p>細い路地の中ほどにポツンと隠れるように祀られている小さな社の神社。</p>	<p>街道沿いにある古く赤い鳥居と参道の奥に社があり、落ち着いた空間となっている。</p>	<p>慈恵稻荷神社の参道に二・七市場碑が残されている。浦和の市は戦国時代に発達した六斎とよばれ、蕨(一・六の市)、鳩ヶ谷(三・八の市)、大宮(五・十の市)等がある。</p>

<p>15 常盤公園</p>	<p>16 店舗</p>	<p>17 路地</p>
		
<p>明治26年に建設された浦和地方裁判所跡地を利用して開設された公園である。裁判所の面影は赤レンガの垣柵と畠山重忠遺愛のキャラの木だけである。</p>	<p>店舗のファサードがレトロさを感じる看板建築になっている店舗。看板の文字にも少し懐かしさがある。</p>	<p>商店の間にある人ひとりが通れるくらいの路地である。子どもの遊び場になりそうな路地。</p>
<p>18 住宅</p>	<p>19 路地</p>	<p>20 弁財天</p>
		
<p>短冊型の敷地にある住宅。妻側がカラートタンで覆われている。</p>	<p>両側がブロック塀で挟まれた細い路地。街道沿いでは間口に対して奥行きが深いこうした敷地が散見される。</p>	<p>通りの傍にポツンとある神社、小さく赤い鳥居が目立つ。</p>
<p>21 仲の橋</p>	<p>22 切り通し</p>	<p>23 中山道</p>
		
<p>道路に架かる鑄物の欄干の橋梁。欄干が鮮やかな色彩で塗装されているのが印象的である。</p>	<p>仲の橋上からの景観。道路がJR線をくぐる所で、両側がコンクリートの切り通しとなっている。</p>	<p>うらわ美術館やホテルの入る浦和センチュリーシティ前の中山道の景観。ここは明治22年から浦和町役場、浦和市役所等があった場所である。(「ウォークイン中山道浦和宿」より)</p>

<p>24 浦和宿の石柱</p>	<p>25 浦和センチュリーシティ</p>	<p>26 浦和宿本陣跡</p>
		
<p>浦和の発展の中心部で中山道の傍らに建つ2.5m程の石柱である。</p>	<p>大通りの四つ角にある大きな近代的な新しいビル。うらわ美術館も併設されている。足元の公開空地も広く確保され、植栽、彫刻が設置されている。</p>	<p>仲町公園内には浦和本陣跡を伝える碑と案内板がある。傍の桜の大木はシンボルツリーとなっている。</p>
<p>27 店舗</p>	<p>28 店舗</p>	<p>29 店舗</p>
		
<p>コンクリート打放しの四角フレームが目を引く建築である。</p>	<p>個性的にデザインされた店舗が軒を並べる商店街。</p>	<p>2階に架かる「椎野のせき妙薬」の木製の古い看板が目を引く店舗。現在は酒店である。</p>
<p>30 仲町平和通り</p>	<p>31 裏門通り</p>	<p>32 店舗</p>
		
<p>商店街の名称等をデザインしたペーパメント。放置自転車などが整理され歩きやすい商店街である。</p>	<p>レトロな感じの店舗が多く立ち並ぶにぎやかな通り。歩行者専用の歩きやすい商店街。</p>	<p>浦和レッズファンの集う有名飲食店。レッズカラーを基調とし、ちょうちんをディスプレイした目立つ店舗である。サッカー開催日にはあふれんばかりのファンが集う。</p>

<p>33 裏門通り</p>	<p>34 埼玉りそな銀行広場</p>	<p>35 写真館</p>
		
<p>裏門通りの中山道より県庁側は、静かな落ち着いた商店街となる。かつて県庁官舎の裏門へ通じる道だったことからそう呼ばれ、現在は県庁第2庁舎北側へ通じる。</p>	<p>ここは大正7年に県下最大の武州銀行が設立された場所。セットバックした広場には銀色の円筒形のからくり時計バルソンが設置され、定時に音楽と踊りを披露してくれる。</p>	<p>大正6年創業の白い壁の洋館風の写真館。洪沢栄一を写した乾板も残っている、県内草分けの営業写真館である。(出典:近代埼玉の建築探訪)</p>
<p>36 店舗</p>	<p>37 店舗</p>	<p>38 店舗</p>
		
<p>大正・昭和を感じる店構えの理容店。木製の扉やガラス窓、回転サインが印象的である。</p>	<p>ひっそりと佇むレトロ感十分な喫茶店。店内は道路高さより下がり落ち着いた佇まいを醸し出している。</p>	<p>周りの喧騒から逃れられる雰囲気のある、おせんべいの老舗。暖簾にも歴史を感じさせるものがある。</p>
<p>39 住宅</p>	<p>40 玉蔵院のしだれ桜</p>	<p>41 埼玉県立図書館</p>
		
<p>1階入口のガラス戸、2階の木製建具のガラス窓、黒い瓦屋根が目を引く住宅。 (かつては酒店)</p>	<p>正面の大きな瓦屋根の山門と本堂の大きな瓦屋根の眺めが印象的である。地蔵堂、本堂前のしだれ桜の大木は春に大勢の見物客でにぎわいを見せる。</p>	<p>組み木風のコンクリート打放しで、少し赤みがかった塗装の外観が目を引きくちよつと古さを感じる建築。</p>

<p>42 埼玉会館</p>	<p>43 県庁通り</p>	<p>44 住宅</p>
		
<p>外壁のタイル貼りに特徴のある建築で、大宮公園内にある県立博物館とともに現存する建築家前川國男氏の代表作品のひとつである。</p>	<p>JR浦和駅から県庁に向かう大通りにはケヤキ並木が形成されている。 (右は埼玉会館)</p>	<p>2階の木製建具のガラス窓と瓦屋根が目を引く店舗風の建物。</p>
<p>45 店舗</p>	<p>46 さくら草通り</p>	
		
<p>小さな店構えの古い造りの鰻屋。格子窓が印象的である。</p>	<p>路面がレンガ風に舗装され、植栽、彫刻、街路灯がきれいに整備されており、人通りも多く賑やかな通りである。本来は明治16年に浦和駅開設時にできた道路である。</p>	
<p>48 ガード下商店街</p>	<p>49 うなこちゃん</p>	<p>50 店舗</p>
		
<p>ちょっと昭和を感じるレトロな商店街である。</p>	<p>浦和名物の一つである鰻の新しいキャラクターの彫刻。JR浦和駅西口のすぐ前にあり、待ち合わせの目印となりそう。</p>	<p>蔵造り風のお菓子屋。銅板の看板に金色の文字が冴える。</p>

	<p>52 さいたま市立高砂小学校</p> 	<p>53 生垣のある通り</p> 
	<p>創立140周年。瓦屋根をのせる校舎の白壁と木製の門、豊かな植栽が地域のランドマークとなっている。</p>	<p>竹垣と植栽が美しく生活道路の景観をやわらかくしている。</p>
	<p>55 店舗</p> 	
	<p>1階のガラス戸と2階のガラス窓の骨組みの構成が美しく印象的である。裏の蔵を改装した喫茶店で種々のお茶が飲める。</p>	
<p>57 店舗</p> 		<p>59 店舗</p> 
<p>2階の格子窓が美しく、1階は目線の部分がすりガラスになっている。軒が低く、重厚な雰囲気醸し出している喫茶店である。</p>		<p>冬桜が季節感を演出し、歴史を感じさせる飲食店。門構えが独特の景観を醸し出している。</p>

<p>60 民家</p>		<p>62 民家</p>
		
<p>重厚感のある商家風の建物。 1階がアルミサッシに改造されており時代の変化を感じる。</p>		<p>総2階の商家を思わせる建物。2階窓の縦格子と1階の雨戸が印象的である。</p>
<p>63 店舗</p>	<p>64 路地</p>	<p>65 工場跡地</p>
		
<p>石造り風のレトロなファサードであるが凹凸のある外壁と形状の違う窓やテラスが印象的な建築である。</p>	<p>片側は腰高の擁壁の上部が樹木で覆われ、もう一方は縦格子のため、目線に緑がある歩きやすい路地である。</p>	<p>残された煙突がかつての面影を残している。</p>
<p>66 店舗と住宅</p>	<p>67 路地</p>	<p>68 -1 調(つき)神社</p>
		
<p>こじんまりとしている和風の店舗。道路に対して角度をつけわずかなスペースに植栽を施し景観に配慮している。</p>	<p>高い塀と高い樹木が印象的な路地。</p>	<p>平安時代からすでにその存在が確認され、崇神天皇の創建と伝えられる。「つきのみや」として親しまれている浦和を代表する神社である。</p>

<p>68 -2 調(つき)神社</p>	<p>68 -3 調(つき)神社</p>	<p>69 住宅</p>
		
<p>室町時代から月の出を待ち月を拝む信仰があり、月待ち信仰の拠点として知られ、入り口には狛犬ではなくうさぎの像が置かれている。</p>	<p>本殿は権現造りで安政6(1859)年に完成している。 毎年12月12日の「十二日市(じゅうにちまち)」は浦和を代表する歳の市としてにぎわう。</p>	<p>門柱と塀の構成が個性的で松が和風住宅を印象強くしている。</p>
	<p>71 住宅</p>	
		
	<p>よく手入れされた垣根が目線の高さで歩く人に圧迫感を与えない路地空間を形成している。</p>	